

## 線形代数 II 第 2 回本レポート課題解答例

担当：大矢 浩徳 (OYA Hironori)\*

### 問題 1

$A = \begin{pmatrix} 8 & -1 & -5 \\ -5 & 4 & 5 \\ 9 & -1 & -6 \end{pmatrix}$  とする。以下の問に答えよ。

(1)  $P = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ -1 & 0 & -1 \\ 2 & 1 & 1 \end{pmatrix}$  とする。このとき、 $P^{-1}AP$  を計算せよ。 答えのみで良い。

(2)  $m \in \mathbb{Z}$  としたとき、 $A^m$  を計算せよ。ただし、計算過程も説明すること。

### 問題 1 解答例.

(1)  $\begin{pmatrix} -1 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & 0 \\ 0 & 0 & 4 \end{pmatrix}$ .

(2) (1) より,

$$P^{-1}AP = \begin{pmatrix} -1 & 0 & 0 \\ 0 & 3 & 0 \\ 0 & 0 & 4 \end{pmatrix}$$

となるので,

$$P^{-1}A^mP = (P^{-1}AP)^m = \begin{pmatrix} (-1)^m & 0 & 0 \\ 0 & 3^m & 0 \\ 0 & 0 & 4^m \end{pmatrix}.$$

この辺々に左から  $P$ , 右から  $P^{-1}$  を掛けて,

$$A^m = P \begin{pmatrix} (-1)^m & 0 & 0 \\ 0 & 3^m & 0 \\ 0 & 0 & 4^m \end{pmatrix} P^{-1}.$$

いま、 $P^{-1} = \begin{pmatrix} -1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \\ 1 & -1 & -1 \end{pmatrix}$  であるので,

$$\begin{aligned} A^m &= \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ -1 & 0 & -1 \\ 2 & 1 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} (-1)^m & 0 & 0 \\ 0 & 3^m & 0 \\ 0 & 0 & 4^m \end{pmatrix} \begin{pmatrix} -1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \\ 1 & -1 & -1 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} (-1)^{1+m} + 3^m + 4^m & 3^m - 4^m & (-1)^m - 4^m \\ (-1)^m - 4^m & 4^m & (-1)^{1+m} + 4^m \\ (-1)^{1+m}2 + 3^m + 4^m & 3^m - 4^m & (-1)^m2 - 4^m \end{pmatrix}. \end{aligned}$$

□

\* e-mail: hoyo@shibaura-it.ac.jp

問題 1 補足解説. (1) については,  $P^{-1}$  を具体的に計算してから  $P^{-1}AP$  を具体的に計算しなくても,  $P$  を列ごとに抜き出して,

$$\mathbf{p}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 2 \end{pmatrix}, \mathbf{p}_2 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \mathbf{p}_3 = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

としたとき,

$$A\mathbf{p}_1 = \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ -2 \end{pmatrix} = -\mathbf{p}_1, A\mathbf{p}_2 = \begin{pmatrix} 3 \\ 0 \\ 3 \end{pmatrix} = 3\mathbf{p}_2, A\mathbf{p}_3 = \begin{pmatrix} 4 \\ -4 \\ 4 \end{pmatrix} = 4\mathbf{p}_3$$

となることからわかるのであった (第 2 回講義資料 p.5 上部の計算参照). ただし, (2) の  $m$  乗計算の際には具体的な  $P^{-1}$  が必要になるので, この段階で  $P^{-1}$  を計算しておいて,  $P^{-1}AP$  が実際に対角行列になるかどうかを確認することで  $P^{-1}$  の検算をするというのも悪くないであろう.

$P^{-1}$  の計算は以下のようにできる. この求め方については第 1 回本レポート課題解答例の問題 3 補足解説を参照すること:

$$\tilde{A} = \left( \begin{array}{ccc|ccc} 1 & 1 & 1 & 1 & 0 & 0 \\ -1 & 0 & -1 & 0 & 1 & 0 \\ 2 & 1 & 1 & 0 & 0 & 1 \end{array} \right)$$

を行基本変形により簡約化する.

$$\tilde{A} \xrightarrow[\text{それぞれ第 2, 3 行に加える}]{\text{第 1 行の 1 倍, -2 倍を}} \left( \begin{array}{ccc|ccc} 1 & 1 & 1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & -1 & -1 & -2 & 0 & 1 \end{array} \right) \xrightarrow[\text{それぞれ第 1, 3 行に加える}]{\text{第 2 行の -1 倍, 1 倍を}} \left( \begin{array}{ccc|ccc} 1 & 0 & 1 & 0 & -1 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & -1 & -1 & 1 & 1 \end{array} \right)$$

$$\xrightarrow{\text{第 3 行を -1 倍する}} \left( \begin{array}{ccc|ccc} 1 & 0 & 1 & 0 & -1 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 1 & -1 & -1 \end{array} \right) \xrightarrow[\text{第 1 行に加える}]{\text{第 3 行を -1 倍を}} \left( \begin{array}{ccc|ccc} 1 & 0 & 0 & -1 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 1 & -1 & -1 \end{array} \right)$$

$$\text{これより, } P^{-1} = \begin{pmatrix} -1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \\ 1 & -1 & -1 \end{pmatrix}.$$

(2) の  $m$  乗計算については第 2 回講義資料の例 1, 2 を参照すること. また,  $m$  乗計算は検算可能である!  $m = 0$  で単位行列になっているか,  $m = 1$  で初めの行列になっているかという 2 点は少なくとも確認するようにしよう. □

## 問題 2

$A, B$  を  $n$  次複素正方行列 (=複素数成分の正方行列) とし,  $A$  の固有値  $\lambda$  の固有空間を  $V(\lambda)$  と書くことにする. つまり, 各  $\lambda \in \mathbb{C}$  に対し,

$$V(\lambda) := \{\mathbf{v} \in \mathbb{C}^n \mid A\mathbf{v} = \lambda\mathbf{v}\}$$

とする. このとき, ある  $c \in \mathbb{C}$  に対して  $AB - BA = cB$  が成立しているならば, 任意の  $\lambda \in \mathbb{C}$  と  $\mathbf{v} \in V(\lambda)$  に対して,  $B\mathbf{v} \in V(\lambda + c)$  となることを証明せよ.

問題 2 解答例. 仮定より  $AB = BA + cB$  であることに注意すると, 任意の  $\lambda \in \mathbb{C}$  と  $\mathbf{v} \in V(\lambda)$  に対して,

$$A(B\mathbf{v}) = (AB)\mathbf{v} = (BA + cB)\mathbf{v} = B(A\mathbf{v}) + cB\mathbf{v} = B(\lambda\mathbf{v}) + cB\mathbf{v} = (\lambda + c)B\mathbf{v}.$$

よって,  $B\mathbf{v} \in V(\lambda + c)$ . □

問題 2 補足解説. この問題の設定で特に  $c = 0$  とすると, 『 $AB = BA$  のとき, 任意の  $\mathbf{v} \in V(\lambda)$  ( $\lambda \in \mathbb{C}$ ) に対して,  $B\mathbf{v}$  は再び  $V(\lambda)$  に入る』ということがわかる. 実はこの性質はこの先の進んだ数学 (例えば表現論等) において非常に良く用いられる便利な性質である.

本問で示した主張について具体的な例を1つだけ見ておこう。  $A = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}$ ,  $B = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$  とする。このとき、

$$AB - BA = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 0 & 0 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 0 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 0 & 0 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} 0 & -1 \\ 0 & 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & 2 \\ 0 & 0 \end{pmatrix} = 2B$$

となる。これは本問の仮定で  $c = 2$  としたものになっている。いま、

$$A \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ -1 \end{pmatrix} = - \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

なので  $\begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} \in V(-1)$  であるが、  $B \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$  は、

$$A \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$$

を満たすので、確かに  $B \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} \in V(1) = V(-1 + 2)$  となっている。 □